

かわらばん 妻入り

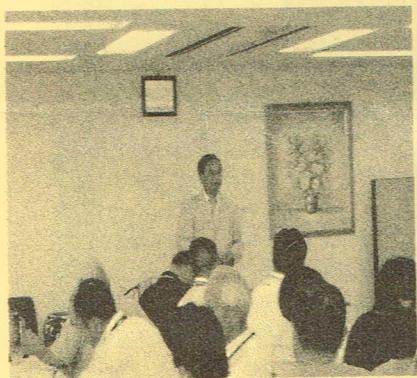
事務局
新潟県出雲崎町
教育委員会
☎0258-78-2250
FAX 78-4559

にいがた協育プロジェクト 「海のステージ」開催！

昨年の8月24日に、新潟日報社主催の「にいがた協育プロジェクト・第3回海のステージ」が当町で開催されました。

町内・町外合わせて約80名の方が参加されたこの企画は、「新潟県人の暮らしや生き方を見つめ直し、新潟の魅力や未来について考えよう」という趣旨のもと、全6回シリーズの3回目として、当町を舞台に、妻入りの街並散策とワークショップが行われました。

午前は当町の観光ガイドの皆さま



んに妻入りの街並を案内していた
だきながら散策し、午後は「日本
海とともに生きる知恵」をテーマ
にワークショップを行いました。

ワークショップでは、「にいがた協育プロジェクト」の塾長で、大地の芸術祭・総合ディレクターの北川フラムさんからお話しをいただきながら、活発な意見交換がなされ、今後の街並活性化活動の参考になる、非常に有意義なイベントとなりました。当日参加された方々の感想を紹介します。

ともに学び、ともに新潟の未来を考える【にいがた協育プロジェクト】第3回「日本海とともに生きる知恵」に参加して

住吉町 村越 隆夫

去る8月24日（日）、新潟日報社主催のこのイベントが、我が出雲崎で開催されました。この企画は一年間で新潟県の5箇所「水のステージ」新潟市佐潟・「山のステージ」長岡市山古志・「海のステージ」出雲崎・「島のステージ」佐渡・「雪のステージ」上越市、を選び出し、それぞれの地域の自然・風土の中で「生きていく知恵とは」



と言うテーマで、我が出雲崎では街並散策とワークショップが海岸公民館で行われました。その日はあいにくの雨にもかかわらず、地元はもちろん、町外、県外からの参加者の熱心な意見が出され、「出雲崎は自然・歴史・人情などの魅力あるものが沢山あり、大切にしてほしい」「佐渡からの金の荷揚げ場であった出雲崎が、その佐渡ともっと交流を深めたらどうか」「時々街の中に車を通さず、歩行者専用にしたら」「自分は地域で暮らす活動をやっている、そしてやればやるほど問題にぶつかる。そ

んな時、他の人々とそのようなことを話し合うと問題解決のきっかけになるのではないか」などなど、我が町に対して真剣に考えや意見を出して下さいました。本当にありがたいと思います。

私達は永くこの地に住んでいるわりには、意外とこの地の良さ、住みやすさや、恩恵をあまり認識していないのではないのでしょうか。四季のすばらしい変化、そこから生まれるさまざまな情景、そして先人達が築き上げた産業や文化などの歴史的遺産。これから、この地の日本海沿岸に生きる者として、これらの恩恵に感謝して、日々の生活が少しでも充実するよう、時々過去を振り返りながら、これからの将来もこの出雲崎で生きていきたいと思っています。

小さな径から

新潟市 玉木有紀子

小径は楽しい。あの角を右に折れたら何が見えるかなとか、二つ



先の角から猫が顔を覗かせて、目が合うと「今はそんな気分じゃない。」と、ふっと横を向いて径影に消えてしまったりと、自分の中で小さな物語が生まれてくる。

妻入りの町並みを歩きながら、そうした光景に最近出会っていなかったことに気付いた。予期せぬ小さな出来事から、私たちの日常は少しずつ確実に遠ざかっているのではないかと。

古来より先人たちがどれほど踏みしめてきたであろうか、幾多の名もなき物語が紡がれたのだろうか、等と、いにしえよりの由来を

地元の方のお話しを伺いながら想像し、長い時間を内に包み込んだ固有の土地と、そこに生きてきた人々の力を借りながら、五感を澄ませてみると、小径の陰影の奥から聞こえる波の音。かつては多くの人が行き交いにぎやかで雑多であつたであろう街道筋の縦糸と、その街道から少し脇に入れば家と家とが重なり合うように軒を連ね、人々の息づかいが聞こえてくる小さな路地が、ここには幾重にも横たわっている。シナリオどおりになどゆくはずも無かった日々、予期せぬ出来事や出会いが人の数だけ、歳月の分だけ折り重なって小径にそっと息づいている。私が見た光景、耳にした音が、過去の誰かの想いと重なる。

町歩きの後、良寛記念館の庭から町を望んだ。あいにくの雨模様だったが、鈍色の空と薄墨色の波間との境がぼやけて、空と海とが交わっていた。「ひとつのところでいくつもの、ものやことがらが重

なり合ってきた」ことを、今も肌で感じる事ができるところ―出雲崎を歩いて、栄蔵が見聞きたであろう音や出来事に思いを巡らせながら、そう思った。

にいがた協育プロジェクト・海のステージに参加して

常楽寺 高野 千恵子

去る8月24日、前記の催しが、新潟日報社主催で、当町に於いて開かれました。当日は、あいにくの雨の中、県内外の参加者が(約80名)3班に分かれて、北前船の寄港地として栄え、良寛や松尾芭蕉、又江戸時代金の荷揚げ場であった当町を、街中ウォークと題して、海岸公民館より天領の里時代館まで、ガイドの方の分かり易い説明で案内して頂きました。

当町に40年以上も住んでいるにもかかわらず、何もわかっていなかったんだと、改めて感じずにはいられませんでした。又、妻入り会館では「ねっとわーくさぶら



「の皆さんより、えご、いかずまきの接待を受け、参加者から大いに喜ばれました。

午後からはワークショップが行われ、塾長の北川フラムさんより、良寛と宮沢賢治のお話を伺いました。とても参考になりました。一緒の班の中で、新潟の漫画家の高橋郁丸さんにお会い出来（主に良寛さんの事について書いて居られるそうです）とても良かったと思いました。

なぜ私がこの催しに参加したかと言うと、子供の頃、母が（勝負の出身）祖母から聞いた話の中で、

尼瀬に行く途中に刑場があり、道端にさらし首が並べられており、それがとても恐ろしかった、と言う話を聞き、そんな所のある町つて、すごい所なんだなあ、と子供心に興味がありました。縁あって当町に嫁ぎ、色々興味はありましたが、なかなかその機会も無く、今回は本当に楽しみ乍ら、参加させて頂きました。又新しい発見もあり、こんなに沢山の史跡や見処満載の当町に於いて、それを活かす方法を皆で考えて、一人でも多く出雲崎に来て頂き、又昔の様に、人口が一万人以上になれる様に願わずにはられない一日でした。

初めての観光ガイド

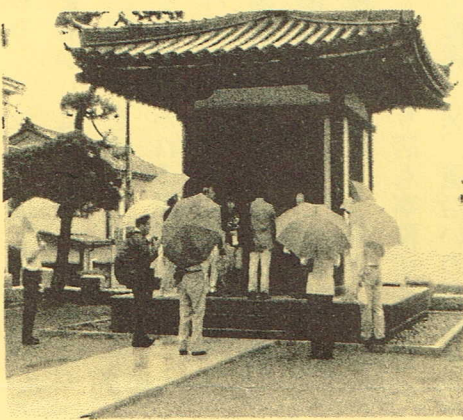
川西 佐藤 勝次

8月24日、新潟日報社主催の「にいがた協育プロジェクト第3回海ステージ」が出雲崎町で開催されました。

4月上旬より観光ガイド育成講座を受けていた為、県内各地から

プロジェクトに参加された人達を、妻入りの街並ガイドをしてほしいと要望があり、少し不安もありましたが受けることに致しました。

なにしろ初めてのことで、参加者に気付かれないよう、妻入りのガイドブックに追加説明をつけたトラの巻を持ったり、一人では心細いので研修仲間の石井茂夫さんと二人で行う事になりました。又参加者には、「今日が初めてのガイドです」と言った方が気が楽と思いい、自己紹介の時、その旨を話したら、幾分気が楽になりました。出雲崎町には、良寛、芭蕉、或



いは幕府の天領地に関わる史跡などがあり、自分なりに話した中で、参加者が関心を示してくれたことがあります。今の良寛堂は良寛寺の構想から良寛堂に変更になったこと、又芭蕉が宿泊した部屋の基礎部分のことや、江戸時代には、道路に面した妻入りの家が、間口の幅を基準にして屋敷税が賦課されたので、間口を意図的に狭くして税を軽減し、奥行きは関係なかったことや、道路に面した家が一軒の家だけでなく、二軒、三軒と奥に有ることを話すと、参加者は驚いておりました。

自分なりにガイドをしながら、なんとか最終地点の天領の里に着くことができ、少しは研修の成果を出せたのでは、と思っております。

今後、できるだけ研修を受け、勉強しながら自信をつけて、出雲崎町に来られる観光客に良い思い出が残る観光ガイドを目指したいと思ひます。

長岡市「摂田屋地区」と「栃尾地区」へ

先進地視察

11月15日(土)に、街並保存活動の先進地視察として、長岡市の摂田屋地区と栃尾地区を訪ねました。

摂田屋地区は、味噌・醤油・お酒の醸造所が集まった「醸造の街」として知られ、また、国の登録有形文化財に指定された「機那サフラン酒本舗の鰻絵蔵」が近年注目を集めています。

一方、栃尾地区は、「雁木」を活かした町づくりが有名で、住民と新潟大学工学部の学生が協働して実際に雁木を建造しています。この取り組みが評価され、国土交通省の都市景観大賞「美しいまちなみ特別賞」を受賞し、今後の活動が注目されている地区です。

今回の先進地視察に参加された方の感想をご紹介します。

長岡市摂田屋地区研修

尼瀬 八木 茂

長岡市宮内駅より程近くに、江戸時代よりつづく醸造の町、摂田屋地区が有る。今に残る旧三国街道入口に、摂田屋町おこしの会的小林芳郎さんが待っておられ、摂田屋地区の説明を受ける。

町おこしのきっかけは、5年前J R東日本主催のイベントで、駅からハイキングという事で、醸造の町摂田屋をハイキングコースに入れたいとの話から、地元ではなんとなく住んでいる摂田屋がそんなにすばらしい所なのかと初めて思ったとの事。いざイベントが始まると大盛況で、住民も醸造の町の魅力に気づき機運が高まったが、中越地震がおき建物に被害を受けた。この摂田屋の貴重な建造物を守ろうと活動が始まり、この11月10日シンボリックな鰻絵蔵の修復

も終わり、これから旧三国街道約1kmを活かした街並みを整備し訪れる人に歴史を感じる空間にしたい、と活気あふれる話であった。

これより街並散策に出発する。

旧三国街道周辺に、酒・味噌・醤油の醸造元が6社ある。建造物は大正時代の本造カワラ葺き、黒い雨板で見る限り店も事務所も当時のまま使用、又、道沿いの味噌倉空地に大きな味噌おけも多数あり、良い景観となっている。各醸造所では、見学・試飲・試食もでき、みやげとして買うこともできる。

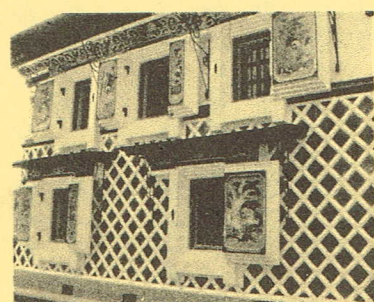
途中、光福寺へよる。この寺は、江戸時代幕末、長岡藩が本陣を置き軍事総督河井継之助はここで指揮を取り



出陣、北越戊辰戦争の始まりを告げた寺であり、NHK大河ドラマ

「篤姫」の時代と重なり歴史を感じました。

最後に機那サフラン酒本



舗の土蔵の鰻絵である。地震で被災したが数日前に修復作業も終わったばかりで、門を入ると色鮮やかに屋根・扉一面に鳳凰、恵比寿大黒、十二支等が立体的に描かれた鰻絵蔵が蘇った。さすが国の有形文化財、見応えがある大正レトロを堪能しました。

夜、買った味噌漬けで酒を飲みながら、散策中地元の人に「どちらからですか」と声を掛けられ、「出雲崎です」というと、「ああ、良寛さんの町ね」と言われた事が蘇った。一言で楽しい散策となった。私も街並散策の人に一声掛けることにします。心に残る研修でした。

つれづれに・・・

妻入り会館・来訪者のひとこと

○出雲崎にずっと来たかった。町の人達がみんな親切で、家も見せてくれ、説明までしてくれました。有難うございました。(静岡県藤枝市)

○妻入りの軒のありかや春の海——とても構造に興味を持ちました。雪国と海に育まれた家のあり方なのでしようね。落ち着いた静かな空間に気持ち澄んでいきました。(東京都)

○出雲崎は良い所、良寛のふるさと、すばらしい歴史の町、毎年来ています。天領研究会の頃がなつかしい。

(魚沼市須原)

○「妻入り」に大変興味がありました。散歩の途中でふらりと立ち寄り拝見できたことを感謝いたします。又ゆつくり出かけてきます。(東京都台東区)

○初めて来た町並を見ていて、変わった家と思って、入って見せてもらいました。すばらしい建物だと思います。(大阪府高槻市)

妻入りの街(三十四)

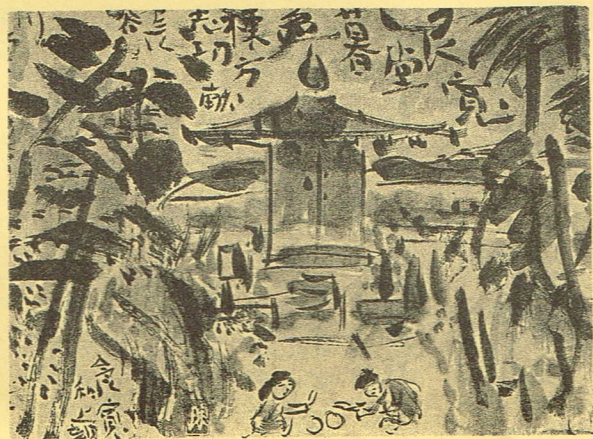
住吉町 磯野 猛

人物往来 棟方 志功

昭和初期、この町へ一人の画家が尼瀬町の津山呉服店へやってまいりました。このころはまったく無名の画家で、まだ画業では食べてはゆけない棟方志功の若き日でした。津山家は江戸時代からの呉服商で、通称を「津藤呉服店」として近郷近村を商売の場としておられました。

この時代出雲崎町には十数軒の呉服・反物を商売とする店がありました。つい最近までを見ても唐澤呉服店、明石呉服店、津藤呉服店、桜井呉服店、津清呉服店、三輪呉服店、石地屋呉服店、村越呉服店、村田屋呉服店などがありました。現在は村越さんと村田屋さんだけ、駅前地区では片桐呉服店だけです。

津藤さんの先代は亀田町(新潟市)の長谷川家から出雲崎の津山家へ養子として来られた方で、亀



田町の長谷川家へ時々訪ねていた棟方志功さんのことを知っておられました。津山さんが実家の亀田へ行った時、たまたま長谷川家に居候(資産家や裕福な商屋などで数日間または数年間食べさせてもらう人。食客とも)していた志功に、「今度出雲崎に来てもいいよ」と言葉をかけられました。志功としては同じ家に長く世話になるよりも、いろいろな家に世話になる方が気楽なものですからありがたかった呼びかけでした。それから

しばらくすると志功は出雲崎の津山家を頼って来たわけです。

これは津藤さんご夫妻から私が直接聞いた話ですのでどうしても書き残しておきたかった話です。現在東京出雲崎会の会長を務めておられる津山忠夫さんにもこんなことを書き留めておきますと話しておきました。

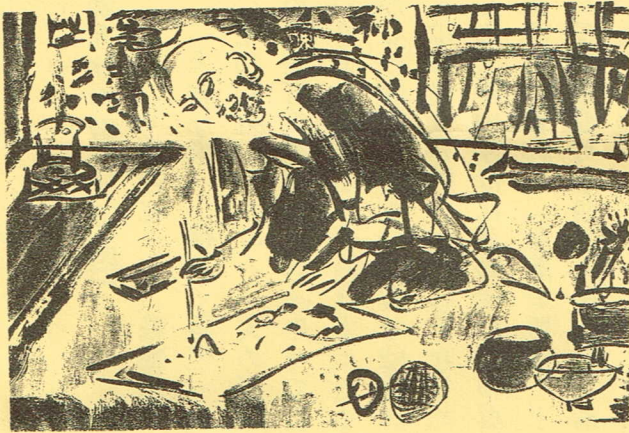
津山家へ訪れた棟方志功を出迎えたご夫妻が玄関で初対面の挨拶をされたその瞬間、いきなり志功は奥さんにパッ!!とばかり抱きついたそうです。驚いた奥さんがびつくりして悲鳴に近い声をあげられると志功はハッとばかり一歩下がって「すみません」そして小さな声で「これが僕の悪い癖です」と平謝りに頭を下げました。ご主人は志功のこうした癖を知っておられたそうですが自分の家でやるとは思っていなかった、と私に話されました。この日から志功の出雲崎を拠点にして各地へ放浪する時代が続きしました。その後も津山

家へは年に一度か二度は訪れて数日間過ごすのですがこの訪問は志功が世に出て有名になってからも続いたのです。

志功が描く女人・天女・女人仏、どの顔も津山さんの奥さんの顔です。私が新潟の知人から聞かされた話です。亀田の長谷川さんの奥さんが志功に笑談半分で「このごろあなたの描く女人の絵はみんな出雲崎の津山さんの顔でしょう」とよく云われたそうです。

志功の女人は丸顔で目がパッチリとして色白で、まさに津山さんの奥さんの顔です。その話を聞いた日から私は志功の板画（志功は版画とは云わないで板画といいました）は特に美人画の顔は津山さんの奥さんの顔だと思ふようになりました。

もう一つ、志功が当時彫刻の勉強をしていた旭達文さん（前光照寺住職）の所へ津藤さんと二人で訪ねた時、志功がその彫刻を見て、「あなたも板画をやりませんか」



と呼びかけたそうです。この時期もう志功は日本を代表する板画家でした。旭さんが「私には難しい」などと話すと熱心に弟子になるようにとすすめられ、遂には旭達文さんは志功に板画を学ぶことになりました。志功に頼まれて弟子になった「頼まれ弟子」は日本で旭達文さんだけではないかと思います。このように人の世話をする行為を昔の人は旦那様と呼びました。津山家と志功のこぼれ話です。

お知らせ

にいがた協育プロジェクト

総括シンポジウムについて

昨年の8月24日に当町で開催された新潟日報社主催・「にいがた協育プロジェクト」の総括シンポジウムが2月22日に新潟市で開催されます。

「水・山・海・島・雪」の全5回、当町を含む県内各地で開催された「にいがた協育プロジェクト」の総まとめとなります。

詳細は1月下旬頃の新潟日報紙面に掲載される予定ですが、興味のある方は是非ご参加ください。

問合せ：新潟日報社企画事業部
電話025-378-9360

あとがき

新年明けましておめでとうございます。

皆さん、ご覧になりましたでしょうか？紅白歌合戦出場のジェロさんが歌う「海雪」を。言うまで

もなく見ましたよね。ジェロさんの紅白出場は彼の歌唱力と出雲崎町民のパワーが一体になったからだと思います。

これからもジェロさんの応援をよろしくお願い致します。

話は変わりますが、一年前かその前だったか忘れましたが、お年寄りが餅を喉に詰まらせる事故がときどき新聞に出ることがありますが、注意してください。お年寄りは「かむ」という動作が鈍ってくるので、餅を小さくしてあげて下さい。小さな子供と同じ要領で作ってあげて下さい。

皆さんにとって幸多き年でありますようお祈り申しあげます。

石井町 納谷 稔

